

平成22年度の学校経営計画 各分掌の目標達成のための具体的計画と達成状況

岡山県立高梁高等学校

※下線部は今年度新たな取り組み

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
① 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。	教務課	予習指導の徹底を図るために、教科会や年次団会議で情報交換を行う。また、教科主任会を5回実施し協議する。	予習に関する授業アンケートにおいて回答平均が前年+0.2以上となる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科主任会議（授業研究部会）は4回実施し、授業見学と予習を徹底させる方策について協議した。</li> <li>内容 ①授業見学の参加率を100%にする方策について ②授業見学の共通テーマ設定見学のポイントの例示について ③コメント用紙とアンケート内容の工夫について ④家庭学習が十分でない生徒の実態について ※④の対応は検討中である。</li> <li>・年次主任と連絡会を3回実施し、年次団の学習指導等について情報交換を行った。</li> <li>内容 課題の提出チェックと提出指導を徹底する。※効果的な取り組み案が出せず、年次主任との連絡会では予習指導の徹底は進展していない。</li> <li>7月に実施した授業アンケート(生徒の予習状況)では前年比較±0であった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>教科主任会議（授業研究部会）は5回実施</b>し、授業見学と予習を徹底させる方策について協議した。11月に実施した授業見学では、43名中41名が授業見学を1回以上行った。29名が2回以上行った。テーマの「生徒の学び」、実施方法も概ね「よかった」との感想を得た。</li> <li>・年次主任と連絡会を3回実施し、年次団の学習指導等について情報交換を行った。</li> <li>・家庭学習時間を増やすための方策として、2年次において学習実態調査の際に、<b>生徒による家庭学習のセルフチェックを施行</b>した。(11月と1月)進路課の取り組みもあり、カンフル剂的な効果はあったのではないかと思う。</li> <li>・11月に実施した授業アンケート(生徒の予習状況)の結果、全教科の平均は2.4点(4点満点)、前年比較±0であった。</li> </ul>	B	B
	進路課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導研修講座に参加して指導力を向上させる。</li> <li>・教科主任会を年3回会議をもち、意見交換等を行う。</li> <li>・実力考査の作問や研究体制の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修参加人数 10名以上</li> <li>・実力考査問題の精度が向上する。</li> <li>・国公立合格数 60。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9名(国1数1英2地歴2理3)が河合塾・駿台・代ゼミの教員研修プログラムに、6名が県内高校の研究授業に参加した。</li> <li>・教科主任へ実力考査の実施方法、校外模試実施後の分析・方策を教科会で検討するよう依頼した。実力考査では、本校で志望者の多い岡大の合格基準点を60点にするなどの意図的な作問としている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9名(国1数1英2地歴2理3)が河合塾・駿台・代ゼミの教員研修プログラムに、3名が兵庫県立小野・姫路東高校に学校訪問、8名が県内高校の研究授業に参加した。</li> <li>・国公立推薦・AO入試で14名が合格した。126名が大学入試センター試験受験した。実力考査と進学状況との関連については3月の結果を待って年度内に検証する。</li> <li>・教科主任との会は1回の実施にとどまっている。年度内には各教科に実力と進路の関連結果を提示し実力の精度向上にむけた作問のあり方を検証してもらう。</li> </ul>	B	
	総務企画課	授業力向上に向けて授業評価アンケートを活用する。①7月中旬にアンケート実施②8月に集計③9月に集計結果配布④以後の授業に反映⑤11月にアンケート実施	授業評価アンケートで70%以上の教員が活用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7/8～7/15にかけて<b>1回目のアンケートを実施</b>し、8月下旬に集計結果を個別配布した。授業評価アンケートの活用については11月実施予定の教員の学校自己評価でみる。</li> </ul>	B	12月下旬に <b>1回目と2回目の比較、教科内平均値との比較がわかるグラフを個別配布</b> することができた。教員のアンケートの活用については、活用できたと思う教員が7%、どちらかといえばそう思う教員が63%で、積極的な活用までには至っていない。	B	
	文化課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科に図書購入希望調査を実施する。</li> <li>・「図書館利用授業ガイド」をメール配信する。</li> <li>・図書館利用授業の研修会を実施する。</li> <li>・図書館利用授業の様子を広報誌に掲載する。</li> </ul>	教職員の図書館利用数(貸出冊数)及び図書館利用授業数が前年度より増加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書購入希望調査、「図書館利用授業ガイド」のメール配信、図書館利用授業の研修会は実施することができた。図書館利用授業の広報誌への掲載はまだ実施できていない。教職員の図書館利用数(貸出冊数)は昨年度より少ないが、図書館利用授業は増加している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>教職員へのメール配信</b>を3回行い、<b>図書館利用授業の研修会</b>も実施することができた。1月末の時点で、教職員の図書館利用数(貸出冊数)は昨年度より少なかったが、図書館利用授業は50時間増えており、県立図書館の搬送便の利用も増加している。</li> </ul>	A	
国語科	様々な場면을捉え、豊かに表現する力を身につけさせる。定期考査・実力考査等で記述力を問う問題を一題以上入れ、取り組ませる。	定期考査において、得点率60%以上の生徒の人数2分の1以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章表現を行う前向きな姿勢は見られるが、内容の面で得点に結びつかない生徒もまだ多い。達成基準の2分の1をやや下回る状況である。書き方等の指導を今後続ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成基準となる生徒の人数は5～6割と基準に到達した。文章表現に取り組もうとする前向きな姿勢も見られる。今後、表現力と共に、表現する内容面について文章読解力の向上も合わせて考えていかなければならない。</li> </ul>	A		

① 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上。	地歴科	学力向上のために基礎力の定着及び強化を図る。そのために授業中に小テストを実施し、その復習により基礎的事項の定着を図る。 (日本史) ・毎回の授業ごとに小テストを実施する。誤答については、テストの裏に5回以上書き再提出させる。 ・年3回小テスト週間を設け実施する。再提出させ弱点分野を分析し、指導の不十分な点を確認する。 (世界史) ・毎週1回的小テストを実施する。採点をして返却し、誤答を3回以上書き再提出させる。 ・单元ごとに小テストを実施し、誤答を訂正させ再提出させる。 (地理) ・单元ごとに小テストを実施し、誤答を訂正させ再提出させる。	小テスト問題の再提出率85%以上  ・毎回実施  ・年3回の週間の設定  ・毎週1回実施 ・单元ごとに実施  ・单元ごとに実施	日本史・世界史・地理ともに、小テストの実施については計画通りで、基礎的事項の定着を図るための出題の作成等の工夫もできている。しかし、再提出については7割程度と不十分である。2年次については、科目選択の関係で次年度に選択しない科目の提出率が低くなっている。今後更に定着を図るために、未提出者にこまめに声かけをして提出を徹底させる。	B	各科目ごとに必要に応じて小テストを実施し、基礎学力の定着を図った。また定着を図るための出題の作成等の工夫もなされ、模擬試験でもまずまずの成果が見られたと思われる。しかし、科目選択後の定着が不十分であり、選択しない科目のモチベーションがなかなか上がらず、第5回定期考査に向けての提出率は上がったが、全体として再提出については7割程度にとどまった。科目選択後の意欲をいかに持たせ、基礎学力の定着を図るかが来年度の課題である。	B
	数学科	学習習慣の定着と基礎学力の向上を図るために、授業中に予習・復習を確認する。	9割の普通科生徒が予習・復習をしている。	約8割の普通科生徒が行っている。9割以上にするために、できていない生徒に授業中の点検をして、学習の習慣化を図る。	B	・予習や復習のチェック表を作成し、ほぼ毎時間機間指導して前時の授業の復習(解き直しや宿題など)を教員の点検表に記入した。小テストにより復習の度合いを点検した。予習・復習の大切さや自宅学習の重要性を文書にして配付し、学習習慣の確立の徹底を図った。 ・学習実態調査において8割の普通科生徒が予習・復習をしていた。問題演習の予定量をこなすことに時間を費やして、予習や復習の確認が徐々に減少したことが課題である。	B
	理科	基礎学力を定着させ学力向上を達成するために、課題提出の徹底をはかる。週1回以上提出一覧表を掲示し、提出を促す。なお提出できない生徒は随時面談を行い提出させる。	提出率90%以上・・・A 提出率75%以上・・・B 提出率75%以下・・・C	期限までにきちんと提出できる生徒の割合は目標の数値を下回っているが、指導した結果9割前後(各科目)、全体では87%の提出率となった。期限厳守を重ねて指導する。	B	・数値目標の達成状況はA・・・6人、B・・・2人、8割前後の科目もあれば、98%の科目もあった。 ・未提出者の指導に徹底ができていない科目は提出率も上がらなかった。 ・3年次においては、授業進捗の関係で演習不足が目立った。3年間を見通した授業進捗を意識して指導計画を立てたい。	B
	保体科	基礎体力(心肺機能)の向上。授業全体を通じて運動量を増やす。年1回、シャトルラン(持久走)をおこない計測する。	基礎体力向上率 男子 80% 女子 55%	主運動時の運動量を評価項目とすることは生徒も理解して取り組んでいる。また、運動量を確保するための練習の工夫も見られた。教師主導型の授業では準備運動時に工夫して様々な動きを経験させているが、生徒主導の準備運動なので多様な動きになっていない。適切なアドバイスが必要である。	B	1年次女子(家政科)66%UP 1次生男子(普通科)84%UP 1年次女子(普通科)62%UP 中学時の体力を回復させ、運動を継続させる体力をつける事を目標に運動量の増加、運動量の多い種目の選択、動きづくりなどをおこなった。特に冬季におけるヘルスランニング(競わせない持久走)は昨年より5分走る時間を延ばした。昨年より大きく向上した。	A
	芸術科	・生徒が積極的かつ自主的に活動できる新しい教材開発を行う。 ・自信をもった自己表現の発表となるよう工夫する。	各科目で設定する。	新しい教材での授業(書道・刻字、音楽・器楽合奏等)、また美術は前年度から新たに取り組んだ教材について深化させて進行中。現時点では生徒も概ね積極的に取り組んでいる。	B	・ <b>新しい教材における授業の取り組み</b> <b>書道…刻字 美術…スタンドグラス。造形</b> <b>音楽…合唱曲の変更、器楽合奏</b> ・生徒の作品、発表等をできるだけ多くの生徒の目に触れさせる(聴かせる)工夫を行った。	B
	英語科	効果的な音読の指導法の研究のため、週1回の会議、外部アドバイザーからの研修を3回、校外への公開授業を1回実施する。	模擬試験の過回・過年度、小テストでの合格者数、生徒の音読の評価でそれぞれ向上する。	教科会の実施、情報交換、授業見学等はできている。1年で音読に力を入れた指導を行っているが、その効果の確認はできていない。2・3年では教材が難化することもあり、音読の代わりに2年では暗唱のような活動に力を入れている。またこまめに小テストを実施することで、特に3年では効果が出てきている。	B	・ <b>教科会議を定例実施</b> し、そこでの情報交換は十分できた。 ・パワーアップ事業の取り組みのなかで、 <b>音読練習を必要とするような小テストの実施</b> をし、本文定着を図ったが、今のところ例年に比べて伸びが著しいとはいえない。原因の分析が必要。	B
	家庭科	食物・被服・保育等の各科目で継続的に使用できる教材・教具の工夫および製作を行う。年度当初に計画会議を持ち、年度途中で検討会議の実施する。年度末には、次年度へ引き継げるよう整理し保存する。	・教材・教具製作の計画表作成ができる。 ・教材・教具の製作ができる。	・年度当初、各科目で教材教具の工夫について計画し、製作している。 ・年度途中の検討会議は未実施。今後は現在の各教科の状況を一覧にまとめ、検討会議を実施する。	B	・各科目で来年度以降も継続的に使用できる教材や教具を工夫し、計画に基づき製作やまとめができていく。 ・具体的な内容の検討までには至っていない。	B

② キャリア教育の視点に立った教育活動の工夫。	教務課	平成 23 年度入学生からの修学旅行に、キャリア教育に関する研修を取入れて計画する。	修学旅行計画ができる。	・研修先の資料と業者から他校情報を収集した。 ・年次主任と意見交換を1回実施した。 ・教務課で原案を作成した。 ・今後は教務原案をたたき台に年次主任と協議し、12月の職員会議にかけることを目指す。	B	平成 23 年度入学生からの修学旅行の計画が完成した。キャリア教育に関する研修としては、①企業・大学・文化施設見学②講演会③都内自主研修が主な内容である。	A	B
	生徒課	朝のあいさつ運動を生徒会執行部が委員会と連携して実施する。	・あいさつ運動の参加者の増加 ・アンケート調査結果	・週3回執行部だけの実施。執行部から各種委員会の委員長との面談などで活動を提案する。	B	・週3回執行部だけの実施。執行部から各種委員会の委員長との面談などで活動を提案するが実行できず。企画をやり直し再提案していく。	B	
	進路課	・総学での学部学科研究を工夫する。 ・面接や進路通信等を通して、生徒や保護者との信頼関係を築き、一人ひとりの生徒にふさわしい進路実現をする。	・生徒アンケートで、総学が有効である。 ・生徒・保護者との信頼関係が築けている。	・岡大訪問（2年次）企業訪問（1年次）を実施した。11月には学問ワークショップ（1年次）を実施する。 ・生徒用の成績記録表を作成した。成績の推移の把握ができ、生徒面談で活用する。	B	・キャリア教育に関するアンケートで、自分の個性や適性の理解がよくできたが12%、ある程度できたが72%、計84%（昨年8%、71%計79%） 上級学校の教育内容や企業の特徴がよく学習できたが15%、ある程度できたが61%、計76%（昨年13%、68%計81%）であった。 ・総学の課題研究で志望系統別研究を行い、発表会を実施した。（1年次） ・1年次10号、2年次号35号、3年次10号の進路通信を発行し、生徒・保護者へ進路情報を提供した。 ・生徒用の成績記録表を作成し、生徒面談・保護者懇談で活用した。	B	
	家政科	教室の整理整頓等により学習する環境を整える。私物の整理や持ち帰りなどについて定期点検を年5回生徒主体で行う。	・身の回りの整備ができる。 ・定期点検	・教室美化について生徒主体で話し合いができた。点検や教室美化は未実施で、今後実施する。	C	・教室美化について生徒主体で話し合いができた。 ・生徒主体の定期点検はできていない。教室美化への呼びかけまでにとどまった。	C	
③ 生徒が自主性を発揮できる行事や委員会活動の工夫。	生徒課	・執行部から各委員会へ活動内容を提案する。委員長と執行部との面談を年4回実施する。 ・執行部と地域とが繋がる行事を1つ計画実施する。 ・文化祭で全校制作をする。	・アンケート調査結果 ・委員長と執行部の面談の実施 ・地域との行事立案 ・全校制作	・各種委員会の活動について、松籟祭を機に編成が整理できた。 ・面談2回実施。 ・紺屋川キャンドルナイトへの参加。 ・文化祭での全校制作実施。	B	・面談3回実施。 ・執行部と美化委員との取組が始まった。（古紙回収）次年度も委員会に企画を提案して活動を活性化していく。	B	
	厚生環境課	教室・便所等校内の美化に対する意識を高揚させ、生徒が自主的に美化に関わるようにするために、月1回学校周辺の清掃活動を行い、ポスターを作成する。	・年間計画の実施 ・月1回の清掃活動ができる。 ・ポスターが作成できる。	・計画通りの活動ができている。 ・活動に取り組む姿勢が積極的で、委員としての自覚ができていようみえる。 ・美化意識向上につながる活動に取りかけられていないので、今後検討する。	B	・委員が積極的に活動に取り組むことができ、 <u>月1回の清掃活動およびポスター作成</u> は計画通りに実施できた。 ・活動の内容は十分に深められたものとなっておらず、次年度に向けて幅広く丁寧な活動となるようにしたい。生徒会との連携を図りたい。	B	
	家政科	校外主催の新たなコンクールについて研究し、参加生徒にコンクールへ向けた計画を自ら作成させ、それを実行させる。	コンクールで入賞する。	・例年応募しているコンクール以外に、新たに現在3つ応募した。 ・「牛乳・乳製品料理コンクール」全国大会へ出場。ホームプロジェクト大会で県大会出場等ができた。	A	・校外主催の新たなコンクールに生徒主体で取り組めた。 ・家庭クラブ県大会「優秀賞」 <u>高校生ファッションデザインコンクール「佳作」</u> <u>牛乳・乳製品利用料理コンクール全国大会「優良賞」</u> 等	A	
④ 情報を共有し課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。	教務課	・進路課と共に、科目選択のための説明資料を新たに作成する。 ・説明の仕方について、年次団会議で十分に共通理解できる工夫をする。	・資料作成 ・全担任が科目選択の説明ができる。	・中四国地区の大学の受験科目を説明資料に含めるなど、資料の改定ができた。 ・調査前の年次会議で、科目選択の指導方針や方法について十分協議ができた。	A	・中四国地区の大学の受験科目を説明資料に含めるなど、資料の改定ができた。 ・調査前の年次会議で、科目選択の指導方針や方法について十分協議ができた。	A	
	生徒課	部顧問会議を実施し、生徒課と部顧問の連携を密にして指導に当たる。	・部顧問会議の実施 ・部活動が活発になり生徒満足が向上	・活動時間の徹底を指示するだけで終わっている。後半は内容の充実について協議する。	C	・年度当初の1回実施。昨年と変わらず。協議事項がなかった。次年度に向けて内容を検討する。	C	
	進路課	・各年次進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 ・定例の進路課会議を行い課題の発見と対策を検討する	・進路通信を各学年10回発行できる。 ・週1回の会議ができる。	・1年次6号、2年次17号、3年次7号の進路通信を発行した。 ・15回の進路課会議を実施した。課題の発見はできたので、後期はその検討をしたい。最重要課題は如何に学習習慣を定着させるかである。	B	・1年次10号、2年次号35号、3年次10号の進路通信を発行した。学年団の進路情報の共有化ができ、進路指導の方向性を共通理解することができた。 ・進路検討会を研修会とした。学習習慣の確立に向けては特性要因図を作成し学校全体で問題点を探り出した。 ・25回の進路課会議を実施した。会議のレジメを作成し議題を明確にした。	B	
	総務企画課	定例の課会議を行うことによって、課内の情報の共有化を図り、協力体制を強化する。	・課会議を月1回は実施し、協力して課の運営をすることができる。	月1回定期的に会議を実施し、業務の確認をしながら情報の共有をすることができた。	A	現在10回の会議を実施済みである。月1回の定例会議を開くことで必要な情報を共有し、協力体制を強化することができた。	A	

④ 情報を共有し課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。	1年次団	年次団会議を月1回程度設定し、生徒の情報交換を行う。また、補完のために毎朝の打合せの中で情報交換を実施する。年次団会議資料を前日には配付する。	月1回の会議が設定できる。毎朝の打合せで情報交換を実施できる。資料を前日までに配付できる。	会議の簡素化を図るため、できるだけ連絡事項を朝礼で行い、会議は5回と会議の縮減ができています。朝礼での生徒情報交換と資料の配付は実施できた。	B	現在、年次団会議は8回と月1回の設定ができていない状況である。しかし、会議の簡素化を図るために朝礼での工夫を行い、会議の内容を精選する点については取り組みができたと思われる。朝礼での情報交換と資料の配付は実施できた。	A	B
	2年次団	年次団会議を効率よく進めるために議題の精選に努め、事前に資料を配布する。会議の時間は1時間以内で終わる。	資料の事前配布ができる。1時間以内で会議を終了させる。	計9回の年次団会議のうち、資料の事前配布が4回、1時間以内での終了が3回と効率よく進めることができなかった。	C	計11回の年次団会議のうち、資料の事前配布が6回、1時間以内での終了が3回であった。月に1回の割合で年次団会議を開くことはできたが、目標を達成することはできなかった。	C	
	3年次団	会議は1週間以上前に予告し、事前に資料を配付する。また終了時刻を予告して実施する。	(実現回数/実施回数) × 100 > 70 となる。	金曜1限に週1回の進路課主催の年次団連絡会議がある為、その場を借りて進路以外の連絡も行っており、会議を放課後等に行う事はほとんどない。(年度当初のものを除けば、学年団主催の放課後の会議は一度も行っていない。)従って現在目標達成率は0% (0/0) である。今後、卒業に向けての連絡会が必要になるので、目標の達成を期したい。	B	中間評価の内容に加えて、①主任の原案を1～2週間前に印刷配付→②年次団朝礼にて確認・意見の募集→③出てきた意見を取りまとめて主任から印刷物で再提案→④朝礼にて承認・決定 というプロセスで、放課後の会議は持たずに済んだ。協議事項の時間短縮化という意味では大いに功を奏した。	A	
	家政科	家政科行事を早めに計画立案する。家政科会議において事前に資料配布を行うことで検討時間の確保を行う。	効率良い会議が実施できる。	・週1回の家政科会議での事前資料配布実施。 ・家政科行事の早めの計画立案を心がけているが、会議時間内に計画した内容が終了しないこともあり、協議内容の精選が必要である。	B	・家政科会議の資料事前配布はほぼ実施できた。 ・家政科行事の早めの計画立案もできたが、27回中5回は、議題が残り次回の会議に持ち越した。会議内容の精選が必要だった。	B	